

予算・決算委員会（平成27年度決算審査）

児童生徒遠距離通学費補助金の見直しを 井野正臣

この補助制度は、学校の統廃合における経済負担の激変を緩和することを主な目的としています。

本市では、平成27年度に小学生4名、中学生74名がこの補助制度を活用し通学しています。

義務教育における教育の無償化というのはあくまで授業料に対するものですが、教育の機会均等ならびに子どもの学ぶ権利を確保する観点から、この補助金について見直すべきと指摘しました。

再生可能エネルギー普及促進について 若木康夫

再生可能エネルギー普及促進事業費について、30万7千円の予算額のところ、決算額は8万9千円でした。事業実績は小学校でのパネル展4回、講演会1回の開催、職員の研修会出席にとどまっています。

このことから本市の地域特性であり、優位点である地熱・温泉排熱を含めた再生可能エネルギーの利用などを市民に対しより積極的に啓発、促進を行うよう要望しました。

歳入減少を踏まえ 既存施策の見直しを！ 杉尾直樹

各主要施策について、全体として及第点の事業成果でした。しかし、本市も少子高齢化や人口減少、各種施設の老朽化の問題を抱えています。今後は明らかに歳入の減少や医療費負担に加え、インフラ整備費の増額が想定されます。

以上のことから、市の将来に向けて継続事業の内容や予算の見直しはもちろん、早期の工事発注や新たな観光施策の推進が必要だと指摘しました。

温泉供給施設維持管理経費について 成田昭浩

年間1千100万円もの維持経費をかけた事業を継続した効果や事業の積極的活用を考えについて質問しました。

市は、移住定住の居住地に充てるのが理想的ですが、市として紹介できる土地がないのが課題で、老朽化対策と温泉の安定供給のため継続している現状との答弁でした。

また、魅力ある観光地づくりと積極的な活用のため、全庁的協議や外部機関との議論の場を創出すべきと指摘しました。

将来につながる事業であつたのか？ 松山哲男

各事業が今後の進むべき方向の一手段であるとの共通認識を持ち、将来展望や大目標に向かった取り組みだったのかという視点で庁舎等改修経費、地域医療対策等経費、アーティスト・イン・レジデンス、北海道新幹線開業観光誘客プロモーション事業費などへの質問と提起をしました。

また「PDCAサイクル」や「重要業績評価指標」などを理解し、論理的思考による戦略戦術に取り組む必要性を求めました。

戦没者追悼式、 エソシカ肉普及について 戸井肇

戦没者追悼式に関して、歳月の経過により遺族も高齢化し、参加が今後難しくなっていくことが予想されます。そこで式典を行う目的の一つである平和祈念という趣旨を前面に出し、若い世代も積極的に参加できるように、現在の方式を変えていく必要があるのではと指摘しました。

またエソシカ肉普及に関して、レシピ紹介など消費者がシカ肉を手に取りたくなるような方策が必要ではと指摘しました。

放課後、児童が過ごす 環境の整備を 米田登美子

現在、放課後に児童が過ごす仕組みには多様な形態があることから、安全確保や老朽施設への対応などについて質問しました。

市は、課題を一つ一つ整理し、実現に向け取り組んでいきたいとの答弁でした。

また、青葉児童館が先行実施している学校からの直接来館方式については、保護者に好評であったことから平成28年5月に本格実施し、常盤児童館と登別児童館でも試行的に実施しています。



※アーティスト・イン・レジデンス…各種の芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招へいし、その土地に滞在しながらの作品制作を行わせる事業。